

# 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録実現に向けた今後の方針について(案)

## 国内推薦決定の状況と課題

- ◆ 国内における推薦決定の状況
    - 6月 4日 府副知事、地元3市長が、文化庁長官へ登録推薦書原案等を提出
    - 8月23日 文化審議会は、今年度、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の推薦を決定
- 百舌鳥・古市古墳群は、「引き続き検討を深める必要がある」とされ、推薦見送り**
- 8月27日 内閣官房の有識者会議で「明治日本の産業革命遺産九州・山口と関連地域」の推薦決定  
 9月20日 政府は、「明治日本の産業革命遺産九州・山口と関連地域」の推薦決定
- ◇ ユネスコへの推薦数の限定 (H24年から毎年の推薦は、文化・自然各1件のみ)
  - ◇ 公募制導入による国内競争の激化 (H27~29年の登録目標資産が8件)
- より熟度の高い推薦書(原案)の作成に向けて**
- (1)登録審査を行う海外専門家にとって理解しやすい内容への精査。  
(国内外の類似資産との比較、日本における代表例の説明、構成資産の選択等)
  - (2)陵墓を含む全ての資産を、世界遺産としての価値のもと、一体的に守るための管理体制や法的措置を整備。特に、「静安と尊厳」の保持という現状の陵墓の管理を尊重した管理のあり方について、宮内庁と協議を進める。
  - (3)資産の価値を守るための、緩衝地帯における具体的な規制内容の設定と地元住民の理解。  
地元自治体の条例、計画において、「建物の高さ」、「建物の意匠・色彩」、「屋外広告物」などを設定。

## 登録実現までの流れ(案)

四月の文化審議会で推薦可能との評価を得る必要



## 登録に向けた工程(案)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
推薦書作成	推薦書(原案)等策定 ・資産の精査 ・緩衝地帯等条件整備着手	海外類似資産調査 ・緩衝地帯のあり方検討	熟度の高い推薦書(原案)等の作成 推薦書内容の精査・・・専門家との推薦書作成 宮内庁との協議・・・国・地元協議(H25.10~) 緩衝地帯の設定(条例制定、計画策定、住民説明) 国との戦略的調整		国内推薦資産に選定 ・推薦書(英語版)作成 ・ユネスコへ推薦書提出	イコモス審査への対応 現地調査	世界遺産委員会で登録決定
情報発信・機運醸成	統一メッセージ発信 地元の機運醸成	民間会議発足・連携PR	民間等との連携事業の展開 / 地域活性化ビジョン(仮称)の策定・実現		大阪・関西の機運醸成	日本国内の機運醸成	登録記念イベント
予算額(案)	33,155	62,697	16,000	16,874 (要求額)	61,000	30,000	30,000
体制	府・地元3市による推進体制整備 (推進本部会議設置)	事務局体制強化 (合同事務局設置)		課題解決の取り組み強化 ・宮内庁協議等(事務局) ・緩衝地帯設定(地元市)		国内推薦目途の見極めに応じて検討	